

2025.12.25 協議会相談支援部会活動報告資料

1.相談支援部会開催報告（1回実施）

①日時：令和7年11月12日（水）15時00分から16時30分

場所：区役所810会議室

協議内容：

- ・第1回自立支援協議会の報告
 - ・各部会報告
 - ・渋谷区相談支援事業所連絡会の報告
- テーマ「相談支援事業所の強みについて」

2.相談支援部会の中からでた課題

●障害福祉サービスから介護保険への移行

⇒介護保険の申請をしても結果が出るまでに時間がかかり、どちらのサービスを利用するのか分からない場合に対応に苦慮している

●就労継続支援B型とアルバイトの併用について

●アパート取り壊しによる転居先探し

⇒障害があり、高齢期にも近くなるとアパートを借りる際の保証人がいないし、そもそもに物件がない。住まいを選べないことや区内に住み続けることが難しくなっている

●引きこもりの方の支援の難しさ

●特別支援学校利用者の放課後の過ごす場所がない

⇒放デイの空きもほとんどなく、放課後クラブ利用のハードルが高い

●中高生の放課後の過ごす場所がない

●児童から成人への移行

⇒放課後デイや日中一時を利用している方が成人になると通所終了後から家族帰宅までの支援がなくなることになる。サービスにも限りがあるためにどうしても難しい場合には家族が仕事を辞めなければならない

●保護者のレスパイト場所がない

⇒子育てで疲れた際に保護者が休息をとれる場所がなく、家族が無理をしなければならない

令和7年度第3回自立支援協議会 就労・日中活動支援部会報告

9月13日（土）くらしとしごとの相談フェア

- ・場所・・・渋谷区役所15階多目的スペース
- ・参加事業所・・・23事業所
- ・来場者・・・34名

参加事業所は就労、生活、相談、企業、ハローワークと多職種の方に参加していただいたが、来場者が少なかったことが残念であった。

特別支援学校の教員、PTAの方からは高評価をいただいたが、あらためて開催の方法を考え直すべきとの意見が多く出た。

12月17日に今後どのようにするかについて話し合いを持つ。

11月26日（水）第3回定例会

ハローワークより、雇用サポーターの就労支援における事例を2件出していただき、検討を行った。

主に発達障がいの方の事例であるが、誕生から学齢期、青年期にかけての当事者の仕事に対する悩みや葛藤が多く、一人ひとりの障がい、家庭環境、支援者との関わり方もそれぞれ違うことから就労支援、生活支援の難しさを感じるものであった。

発達障がいの支援については、今後も課題として支援のあり方を追求していきたい。

12月2日（火）、3日（水）自主製品販売会

障害者週間に合わせて2日間の開催。

毎年売り上げがあるが、少しマンネリも感じる。時期や場所を新たに考えたい。

令和8年2月20日（金）高齢障がい連携会議

- ・テーマ「障がい福祉サービスから介護保険への移行時の課題2」

第1回では65歳を迎えた障がい者が介護保険サービスを利用するに当たり、費用の負担が発生することと、サービスの支給量が減ってしまうことの課題を実際の事例を通じてパネルディスカッションを行った。

また、グループワークでは職場の環境についての意見交換を行った。

第2回は障がい福祉サービス事業所とケアマネジャーの連携により、介護保険サービス利用がスムーズに行えた成功事例を、関わった職員の発表により行う予定。

グループワークも事例発表とテーマが連続する形で行う予定。

以上

令和7年度 第3回渋谷区自立支援協議会子ども部会報告資料

1.第3回子ども部会開催報告

日時	令和7年8月21日(木) 10時～12時
会場	渋谷区子育てネウボラ6階会議室
参加者 (敬省略)	安藤(部会長 はあとびあキッズ)、大久保(副部会長 渋谷なかよしぐるーぷ)、平柳(事務局 代々木の杜ピアキッズ)、遠藤(渋谷区肢体不自由児者父母の会)、倉本(渋谷区重症心身障がい児者を守る会)、田村(りばあさいど原宿)、安田(障がい者福祉課)、岡野、笹森(相談支援部会)、小原(渋谷区子ども発達相談センター)、三宅(生活実習所つばさ オブザーバー)

(1) 意見交換

- ① これまで挙げた事例課題の進捗状況
- ② 新規事例として取り上げる課題
- ③ 第2回子ども部会子育てネウボラ連携回の振り返り

(2) 継続的活動について

- ① 児童発達支援センター(代々木の杜ピア・キッズ)
 - ・ペアレントメンター育成事業を開始予定

2.第4回子ども部会開催報告

日時	令和7年10月16日(木) 10時～12時
会場	渋谷区障害者福祉センター代々木の杜 交流室A
参加者 (敬省略)	安藤(部会長/はあとびあキッズ)、大久保(副部会長/渋谷なかよしぐるーぷ)、平井、平柳(事務局/代々木の杜ピアキッズ)、笹浪、安田(障がい者福祉課)、笹森(相談支援部会)、小原(渋谷区子ども発達相談センター)

(1) 課題協議・意見交換

- ① 前年度事例で挙げた進捗状況
- ② 第2回子育てネウボラ連携回について

(2) 継続的活動について

- ① 児童発達支援センター(代々木の杜ピア・キッズ)
 - ・「おしゃべり SUNDAY」から「ゆるっとーくひろば」へと名称変更
 - 第1回9月に2・3歳児を対象で実施予定だったが、集客できず開催中止。
 - 第2回12月10日(水)2・3・4歳児を対象に実施。
- ② 「しぶコミ」について
 - ・今年度中に更新予定

※次回の子ども部会は、「しぶや子育てネウボラ」各部署との連携回を予定

次回子ども部会は、1月8日(木) 予定

① 意思決定支援の現状と課題

介護保険の利用については「意思決定というよりは、制度上仕方ない」という現状があるのでは。子どもの意思決定支援の難しさについて。

選べるものがない、知らない中で決定することの難しさ。

家族がいる中で、本人の気持ちをどう聞くかが課題。

知的障害の方の場合、「自分で決定をする機会がないのでは」という指摘。

② 引きこもりのある人のケースと対応の難しさ

支援側がサービス利用を働きかけているが、継続が難しくなる場面もあり、理由が把握しきれないこともある。本人がこれまで経験してきた範囲の中でしか選択が難しく、選択肢をわかりやすく提示したくても、なかなかできていない。

経済的な余裕がある家庭では、本人の生活が大きく変わらないまま時間が過ぎてしまうことがある一方、余裕がない家庭では引きこもりが生活の困難に直結してしまう場合もある。

家の環境が過ごしやすく整っていることで、外に出るきっかけがつかみにくいという側面もあるのでは。

③ 意思決定支援には時間が必要で、短期で決められないこと

短期のアセスメントで決定できるものではない。

選択肢・体験が重要。

「やり直しがきく」「体験しながら考えていく」ことが必要。

「これで上がり」ではなく、次のことを考えていく。

④ ライフステージの移行期にある課題

18歳の壁

このタイミングで一気に切り替えることが、一つのきっかけになることもある。

卒後の「日中活動後の時間」の受け皿の不足（家族ケアによる対応）。

今後、日中活動の場も満杯になる可能性があり、その負担が家族に被ってくる懸念。

⑤ 高齢期の移行の課題

本人が「希望しているから」という理由で、日中活動の場の利用の継続という選択で良いのか。

検討を通じて

どこも目詰まりしていて、**循環していく必要**があるが、どこから手をつけていけば良いのか

循環するための手立てがなく、内部で完結してしまっている現状がある

現場には、アウトリーチの手段も少なく、閉塞感がある

障害福祉の制度に関わらずインフォーマルなものも含めて資源を使っていく発想の転換が必要

話し合いから見えてきた意思決定支援に必要な視点

- ・時間をかけた継続的な関わりの中で醸成される
- ・選択肢があること、そのために体験する機会があること
- ・やり直せること、体験しながら形成されていくもの
- ・これで上がり、ではなく、次のステップへと進めていくもの